

## 私の考え：asagami AI × Cursor Rules 連携

### asagami AIの魅力は「ノートと問題を解く」こと

asagami AIの最大の魅力は、ノートから問題を自動生成し、それを解いてもらうことで理解度をチェックできる点です。

システム会社の部門やプロジェクトごとに、その部門やプロジェクトに関するノート管理者が従業員に問題を解いてもらい、集計は管理者が管理します。ノート1に対して従業員多数、管理者は1という構造です。

### 集計データからCursor Rulesを自動生成

管理者はasagamiのノートの集計を見ることで、部門や特定のプロジェクトの従業員が苦手とする項目や間違えやすい業務の内容などが浮き彫りになります。

そのデータに合わせてasagami AIがCursor Rulesを作る（.cursorフォルダを生成する）ことで、個人のスキルレベルに応じた「適応型開発環境」を構築できます。

## 文化祭のカレー屋さんで例えると

「チーム専用のAI家庭教師つき教科書」と「超おせっかいなゲームの攻略アシスタント」が合体するイメージです。

### 1 asagami AI = チームの教科書メーカー

クラスの**担任の先生（管理者）**が「最高のカレーを作るための秘伝のレシピ」や「接客で絶対言ってはいけないNGワード集」を『**クラス専用ノート**』にまとめます。

クラスみんなはそのノートを読み、AIが自動で出す「**タマネギは何分炒めるのが正解？**」「**お客様に『いらっしゃいませ』の次に言うべき言葉は？**」といったクイズを解きます。

**担任の先生は、誰がどの問題を間違えたかの集計データを見ることができます。**「あ、このクラスは半分以上の生徒がリンゴの隠し味のタイミングを間違えているな」と分かります。

### 2 asagami AIがCursor Rulesを自動生成

集計データに基づいて、**asagami AIが自動的にCursor Rules（.cursorフォルダ）を生成**します。これが「調理や接客を手伝ってくれる超優秀な助っ人AI」の設定ファイルになります。

### 3 Cursorからのフィードバックで正のループ

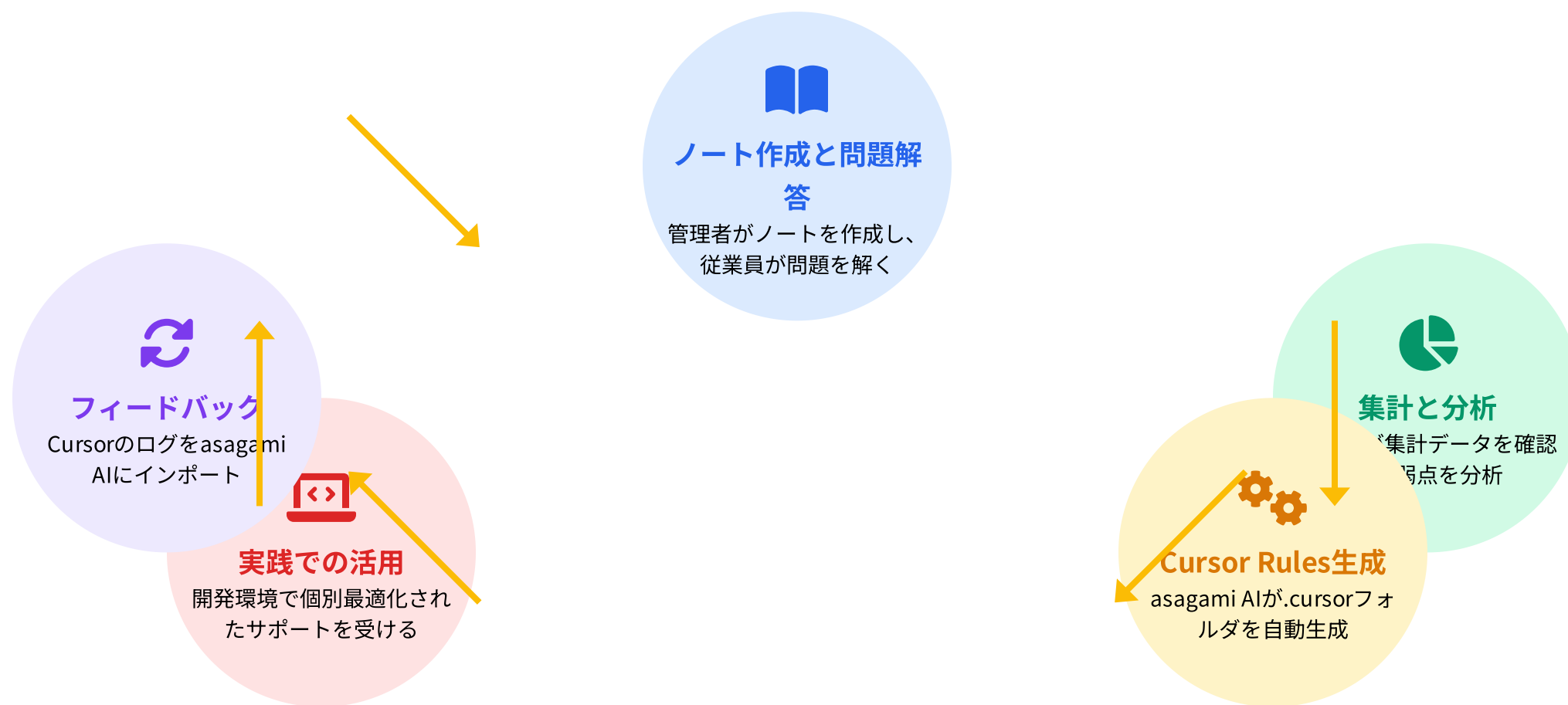
カレー作りや接客の**実践中のログ（誰がどこでつまづいたか）**をCursorが記録し、それを**asagami AIにインポートすると、AIが自動で「よくある間違いまとめノート」**を作成して新しい問題を生成します。

これにより、「**学習→実践→フィードバック→より良い学習**」という**正のループ**が生まれます。



## 学習と実践の継続的サイクル

asagami AIとCursor Rulesの連携で生まれる「正のループ」



### このサイクルの特徴

- **管理者主導の集計と分析**： 管理者がノートの集計データを確認し、チーム全体の傾向や個人の弱点を把握
- **asagami AIによるルール自動生成**： 集計データに基づき、asagami AIが最適なCursor Rulesを自動生成
- **双方向のデータ連携**： Cursorの実践ログをasagami AIにインポートし、新たなノートや問題を自動生成

# 具体的な連携シナリオ

## トップダウン式ナレッジ浸透モデル

### 金融システム開発チームの例

- 研修ノート作成：**  
リーダーが「最新の金融セキュリティ要件」に関する資料を asagami AI のノートにまとめる
- 習熟度テスト：**  
AI がノートから「4択問題」や「穴埋め問題」を自動生成。チームメンバーが解答
- 弱点分析とルール適用：**
- Aさん：「データ暗号化」の正答率が低い → 暗号化関連コードを書く際、自動で社内推奨ライブラリを提示
  - Bさん：「個人情報保護法」の理解が浅い → 個人情報にアクセスする処理を書くと、警告と関連ドキュメントへのリンクを表示

トップダウン式モデルの知識分布



■ セキュリティ知識 ■ コーディング規約 ■ フレームワーク理解 ■ 業界知識

## ボトムアップ式スキル向上モデル

### 新人エンジニアのオンボーディング例

- エラー検知：**  
新人のCさんが、開発中にReactのHooksに関する同じエラーを3回繰り返したことをCursorが検知
- 補強問題の自動生成：**  
検知データをAPI経由で asagami AI に送信
- 個別学習：**  
Cさんの asagami AI に「React Hooks 集中特訓問題セット」が自動で配信される
- ルールの最適化：**  
Cさんの理解度向上に伴い、Cursorの過剰なサポートルールは自動的に緩和され、自立を促す

ボトムアップ式モデルの成長分野



■ 実践的スキル ■ 問題解決能力 ■ エラー対応力 ■ チーム連携

# 技術的な連携方法

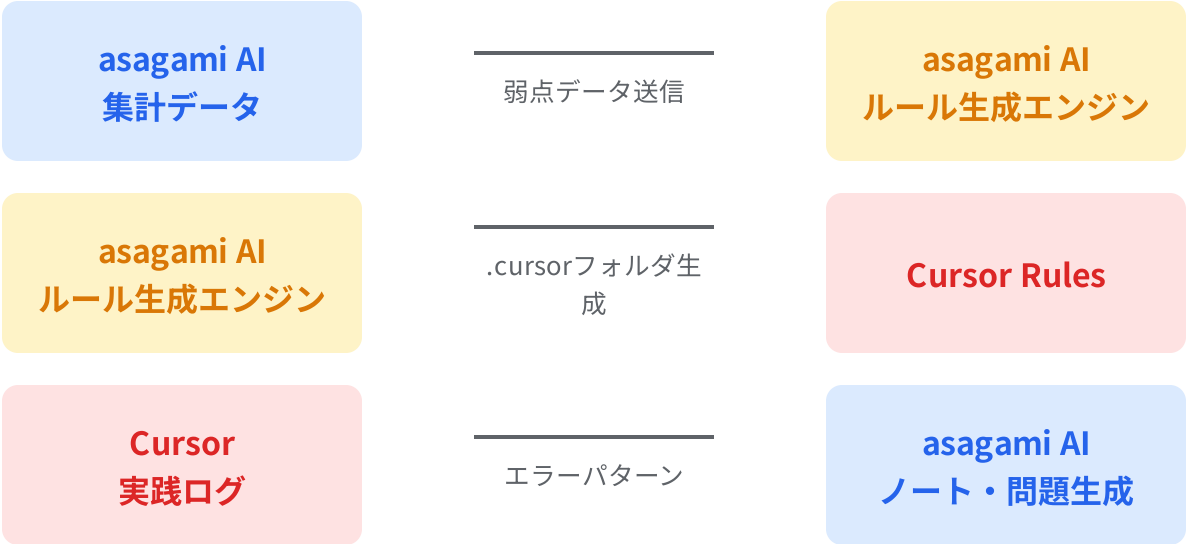
## API連携の仕様

### asagami AI → Cursor Rules

```
// 集計データの構造
{
  "department": "金融システム開発",
  "noteId": "sec-123",
  "weakPoints": [
    {
      "topic": "データ暗号化",
      "averageScore": 65,
      "problemAreas": ["鍵管理", "暗号化アルゴリズム選択"]
    }
  ],
  "individualData": [
    {
      "userId": "tanaka",
      "weakTopics": ["データ暗号化", "SQLインジェクション"]
    }
  ]
}
```

### Cursor Rules → asagami AI

## データの流れ



### 高校生にもわかる説明

**asagami AI側：**「みんなのテスト結果をまとめて、苦手なところを見つけるよ。その情報を使って、クラス別の勉強サポートプラン（cursor rules）を作るね。」

**Cursor側：**「実際に勉強や仕事をしているときに、どこでつまづいたかを記録するよ。その情報をasagami AIに送って、もっと効果的な勉強方法を考えてもらうね。だからまたテストやってね。」



